

WA150、タイヤ脱落

事故事例KYT資料 Vol.2 (5月)

2017年5月
発行：コマツ物流株式会社
地域物流部

WA150-6 (新車) 納入荷降し時、歩み板からの タイヤ脱落事故

1. 発生日時： 2013年 10月 16日 (水) 9時 00分頃
 2. 発生場所： ㈱〇〇〇〇 相模原工場 (神奈川県相模原市中央区)
 3. 事故当事者： 所属：〇〇〇リース運送(株) 職種：運転手
年齢：37歳 勤続年数：9年 経験年数：15年
社員区分：〇正規社員 〇期間社員 〇派遣社員 ■その他()
 4. 事故概要： 作業名：WA150-6 新車輸送、荷降し作業 ※タイヤ幅450mm
運送車両：低床トレーラー
(最大積載量:25t、荷台幅：2990mm 荷台高さ：680mm 中落ち長さ5000mm)
- 10/15 (火) 天候：雨
PM コマツ建機販売㈱東京カンパニー様本社 (神奈川県川崎市) で、当該建機を積込みする。
- 10/16 (水) 天候：曇り
8:50 納入場所である㈱〇〇〇〇相模原工場に到着し、依頼元のコマツ建機販売㈱東京C営業ご担当者との立会いのもとバック走行で荷降し作業を開始する。
この時、トレーラーに4本積んである歩み板を2本(左右1本ずつ)しか使わずに荷降し作業を進めた。
(立会いの営業ご担当者から、4本(左右2本ずつ)の使用を促されたが、ドライバーは問題ないと判断し、荷降し作業を続行した。)
※歩み板の幅は200mm/本。 ※誘導員は、既に荷降し場を離れており不在であった。
- 9:00 歩み板走行中に当該建機が脱輪し、ステップ及び下部フレームが歩み板と接触し、損傷した。
(ドライバーの怪我は無し)
- 9:15 当該運送会社から当社へ、事故発生のご連絡が入る。
- 11:30 当該建機を、積込み場であるコマツ建機販売㈱東京カンパニー様本社へ輸送し、整備課にて損傷状況の検証・確認を行う。
(この際の荷降し時は、歩み板を左右2本ずつレバーブロックで固定し計4本使用) ※下記写真参照)
5. 状況写真 (写真がない場合パンチ絵でも可)：



歩み板の幅：200mm/本
(※当該建機WA150のタイヤ幅：450mm)

※この写真では2本ずつ計4本使用しているが、納入荷降し時は左右1本ずつしか使用していなかった。

事故の原因はどこにありますか？

KYT実施協力会社様回答より抜粋7社)

- ① 歩み板を4本積んでいたのに2本しか使用していなかった。
- ② 歩み板手前で停止し機械と歩み板とのスレを確認しなかった。
- ③ 誘導員が不在で1人作業になっていた。
- ④ ドライバーの経験年数からくる過信。
- ⑤ ドライバーが立会い営業担当者の言うことを聞かなかったから。
- ⑥ 歩み板が80kgくらい有り出すのが面倒だった？
- ⑦ 手抜き行動。

どのような対策が考えられますか？

KYT実施協力会社様回答より抜粋7社)

- ① 積む機械に応じて適切な歩み板の本数を使用する。
- ② 慣れた機械であっても歩み板手前で停止し機械と歩み板とのスレを確認する。
- ③ 誘導員又は立会い者がいる場合は見てもらう。
- ④ 経験年数が過信になるのではなく、経験を生かした安全作業を行う。
- ⑤ 天候によって危険が高まることもあるので、天候を考慮して作業を行う。
- ⑥ 誘導員がいなければ立会いの営業担当者に誘導してもらう。
- ⑦ 自動歩み板に変更する。

コマツ物流より

過去にもWA100が200mm幅の歩み板1枚使用で、雨天降ろし中に脱輪し損傷させています。
事故の後に弊社では、WA100と150は歩み板1枚使用の場合は幅は270mm以上と決めました。
この事故のように歩み板幅が200mmの場合は、左側写真のように2枚並べてレバーブロック等で連結して下さい。

歩み板手前では停止し、タイヤと歩み板のスレを確認してください。
この確認を怠り、荷台から転落する事故も発生しています。
誘導員がいれば、積降中のタイヤと歩み板のスレを確認してもらって下さい。

WA100、150の落下事故は特に多く、注意が必要です。